

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	現代社会 A
科目基礎情報					
科目番号	11004	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科	対象学年	1		
開設期	3rd-Q	週時間数	4		
教科書/教材	「高等学校 新公共」(第一学習社)、「クローズアップ公共 2022」(第一学習社)				
担当教員	瀨本 千恵子				
到達目標					
<p>① 青年期にはどのような課題があり、何をすべきか説明できる。青年期の私たちと、公共的な空間のかかわり方について自己の意見を説明できる。</p> <p>② 日本が法の支配する国家であることを説明できる。</p> <p>③ 日本国憲法について国民権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から説明できる。</p> <p>④ 国際社会における問題と、それらの問題への日本の取り組みを説明できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限のレベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	現代社会における問題点をふまえた上で、青年期の私たちと公共的な空間とのかかわり方について自己の見解を説明し、より良いかかわり方を提案できる。	現代社会における問題点をふまえた上で、青年期の私たちと公共的な空間とのかかわり方について自己の見解を説明できる。	青年期の私たちと公共的な空間とのかかわり方について自己の見解を説明できる。	青年期の私たちと公共的な空間とのかかわり方について自己の見解を説明できない。	
評価項目2	人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について詳細に説明できる。	人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について一通りの説明ができる。	人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について簡単な説明ができる。	人の支配から法の支配への変遷と、その動きに影響を与えた思想について説明ができない。	
評価項目3	日本国憲法について国民権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から論理的かつ詳細に説明できる。	日本国憲法について国民権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から論理的に説明できる。	日本国憲法について国民権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から説明できる。	日本国憲法について国民権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原理から説明できない。	
評価項目4	国際社会において指摘されている問題点と、これらの問題について日本がどのように取り組んでいるかを説明できる。国際社会において、将来に向けて自分たちがどのように関わっていくべきか、自己の見解を説明し、グループで意見をまとめることができる。	国際社会において指摘されている問題点と、これらの問題について日本がどのように取り組んでいるかを説明できる。国際社会において、将来に向けて自分たちがどのように関わっていくべきか、自己の見解を説明できる。	国際社会において指摘されている問題点と、これらの問題について日本がどのように取り組んでいるかを説明できる。	国際社会において指摘されている問題点と、これらの問題について日本がどのように取り組んでいるかを説明できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育目標 (F)					
教育方法等					
概要	第3学期開講。 本講義は、高専5年間で学習する社会科諸科目の導入的な役割も担っている。そのため、1つのテーマについて深く掘り下げていくよりも、現代社会の抱える様々な問題について幅広く確認することを目的としている。なお、本校における講義の名称は「現代社会」となっているが、学修する内容は高等学校における必修科目「公共」である。				
授業の進め方・方法	上述の通り、講義は教科書と配布資料を中心に進める。講義に際しては教員が一方的に話をするのではなく、可能な限り学生の発言をうながす。基礎知識を身につけるため、講義ごとの確認テストや、単元ごとの小テストも行う。また、他の学生と一つのテーマについて話し合い、物事を多角的にとらえる機会を提供するため、グループワークを実施する(ただし感染症の影響等で中止する可能性がある)。				
注意点	前回の授業で話した内容が次の時間にもつながるケースが多いので、授業にのぞむ前に復習をしっかりとやってほしい。また授業では教員の話聞くだけでなく、積極的に発言してもらいたい。ただし授業に関係のない私語は厳禁。時事問題について言及することもあるため、テレビや新聞、インターネットを使用してニュースを確認しておくことと良い。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	【第1回】ガイダンス 【第2回】公共的な空間をつくる私たち(1)	【第1回】シラバスの内容を説明できる。中学校の社会科で勉強した内容を確認する。 【第2回】人生の中で、青年期とはどのような時期であり、またどのような課題があって、何をこなす必要があるかを説明できる。	
	2週	【第3回】公共的な空間をつくる私たち(2) 【第4回】公共的な空間における人間としてのあり方生き方	【第3回】わたしたちの生きる現代社会と、伝統・文化とのかかわりについて説明できる。人生におけるキャリア形成や生涯学習の意義について説明できる。 【第4回】現代社会における様々な問題について、幸福・正義・公正の観点から異なる解決方法を模索しうることを説明できる。		
	3週	【第5回】グループワーク(1) 【第6回】公共的な空間における基本原理(1) 尊厳と平等	【第5回】社会の進歩に伴って発生した様々な問題について、幸福・正義・公正のバランスを計りながらグループで意見をまとめることができる。 【第6回】人間の尊厳と平等の意義について説明できる。人の支配から法の支配への移り変わりを、歴史的事実をふまえて説明できる。		

		4週	【第7回】公共的な空間における基本原理（2）法の意義 【第8回】公共的な空間における基本原理（2）法の意義	【第7回】法とは何かについて説明できる。日本国憲法が定める基本的人権（自由権）について説明できる。 【第8回】日本国憲法が定める基本的人権（社会権）について説明できる。
		5週	【第9回】公共的な空間における基本原理（3）契約と消費者の権利・責任 【第10回】グループワーク（2）	【第9回】18歳で成人となる私たちが、社会において何ができるようになるかを説明できる。また、自分で行動することの責任について説明できる。 【第10回】契約に伴う問題の実例、及び解決方法について調べ、グループで意見をまとめることができる。
		6週	【第11回】政治的な主体となる私たち（1）選挙のしくみ 【第12回】政治的な主体となる私たち（2）政治のしくみ	【第11回】日本における選挙のしくみについて説明できる。 【第12回】日本国憲法が定める政治のしくみ、及び地方自治について説明できる。
		7週	【第13回】国際社会と国家主権（1） 【第14回】国際社会と国家主権（2）	【第13回】国際社会とは何か、「国家の三要素」を軸に説明できる。国連の意義と役割について説明できる。 【第14回】国際社会におけるさまざまな問題と、これらの問題に対する日本の役割について考え、説明できる。
		8週	【第3学期期末試験】 【第15回】試験返却	【期末試験】第3学期の学習内容について試験を行う。 【第15回】試験を返却し、解説を行う。試験問題は解説の終了後、回収する。

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	1	
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	1	
		公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3		
現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3				

### 評価割合

	期末試験	確認テスト	小テスト	ポートフォリオ	グループワーク	合計
総合評価割合	50	15	15	10	10	100
基礎的能力	50	15	15	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0